

第1学年美術科「ジャポニズムを見つけよう」(鑑賞)

1、題材 ジャポニズムを見つけよう (鑑賞)

2、目標

- ・ 作品の比較鑑賞をとおして、ジャポニズムについて理解を深める。(鑑賞)
- ・ 作品の鑑賞を楽しみ、自分の意見を持つ。(関心・意欲・態度)

3、学習の基盤

(1) ジャポニズムとは、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、日本の美術がヨーロッパの美術に与えた影響のことをいう。特に江戸時代に日本で大流行した浮世絵の影響は大きい。平面的な色面構成、斬新な構図、波や樹木など様式的にとらえた自然、モデルのポーズや主題等の特徴は、印象派の画家達に大きな影響を与えており、その優れた作品は現在でも美術的評価が高い。

浮世絵は、版画作品であるため値段も安く、日本では庶民の間で大変親しまれた。喜多川歌麿、安藤広重、葛飾北斎、東州斎写楽などの浮世絵師と呼ばれる画家達が活躍したが、当時の日本ではそれほど価値は高くなく、絵画作品というよりも情報を伝えるものとしての認識のほうが強いものであった。

1年生は、2学期から木版画(一版多色)での作品制作に取り組んでいる。浮世絵も同じ木版画(多版多色)で制作されている。また導入で扱うゴッホは、1学期の鑑賞の授業で学習している。この題材は、1学期の鑑賞内容や2学期の作品制作と関連性を持たせながら、ジャポニズムについて学習することで、日本から世界へ発信された文化があることを知ることができ、日本の美術にもさらに興味を持つのに適した題材と考える。

(2) 本学級の生徒は、…一部省略…

また、鑑賞『4つのひまわり』では、4つの作品を比較鑑賞しながらそれぞれの作品について個人が自分の感想を持ち、ゴッホの生き方にも興味を持って鑑賞することができた。

しかし、作品鑑賞の経験はまだ少ないため、もっと鑑賞を楽しむことができるように色々な見方を知り、自分の意見を持てるようになってほしいと考える。

(3) 少ない授業時数の中で、鑑賞の時間を設定することは難しくなっている。また、生徒たちが将来、楽しみながら芸術作品を鑑賞できるように、様々な鑑賞の仕方を体験できる授業が求められている。つまり、美術史的要素や作品の制作方法、技術等の知識理解だけではなく、生涯学習を見越した美術の時間となるよう工夫することが大切であると考え。

そのため、本時では生徒が作品の鑑賞は楽しいと感じられるように、講義形式のみではなく生徒たちの活動を大切にしている。まず、導入では2つの作品に生徒が親しみを持ち、授業への意欲を高めることができるように、グループごとに2作品の簡単なパズルをさせる。展開では、「浮世絵や日本の美術作品の影響を自分で探す」「浮世絵について理解を深める」「教師の話聞く」等様々な鑑賞を体験させる。また、作品鑑賞そのものを楽しめるように、生徒が感じた素直な思いを受け止め、教師の価値の押し付けにならないよう注意したい。まとめでは、生徒が「他にも作品を見てみたい」と思える様に、本時の取り組みの様子を教師の言葉で評価したり、教師の鑑賞に対する思いを話すことで、芸術作品に触れる楽しさやおもしろさを伝えていきたいと考える。

4、本時の展開と評価

(1) 展開

	学習活動	教師の指導 (○) と支援 (●)	評価規準
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの絵画を見比べ、ジャポニズムについて興味を持つ。 * 作品 『名所江戸百景』…歌川広重 『日本趣味：雨の大橋』…ゴッホ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ジャポニズムについて簡単な説明をする。 ●グループごとにパズルをさせ、2作品に興味を持たせる。 ●図版や資料集を利用し、視覚的によくわかるように説明する。 ⇒日本美術が西洋美術に与えた影響全般であること 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの作品から、浮世絵や日本美術の影響が見られるところを探し、ワークシートに記入する。 ・見つけたところを発表し、お互いの意見を聞き合う。 ・浮世絵について知る。 ・教師の話聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ○どのようなところに浮世絵や日本美術の影響が見られるか探させ、記入させる。 ●導入時でのジャポニズムの説明を思い出させて手がかりとさせる。 ⇒浮世絵をそのまま模写している 浮世絵を画面に描きこんでいる 構図を真似している 日本製の物を描いている ●机間巡視し、うまく見つけられない生徒に助言をする。 ●生徒の意見は肯定的に受け止め、様々な考え方があることを認め合える雰囲気になるよう配慮する。 ○図版やプリントを使い、浮世絵について説明する。 ⇒時代背景 主な作品、作者 制作方法 作品に対する当時の日本人と西洋人の評価の違い ○浮世絵や日本美術を自らの作品に取り入れた画家達の考えについて話しをする。 ●考えの押し付けにならない様、教師の個人的な思いや感想として話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の比較鑑賞をとおして、ジャポニズムについて理解を深める。 (発表・プリント) 鑑 ○作品の鑑賞を楽しみ、自分の意見を持つ。 (発表・プリント) 関
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を書く。 ・感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の授業で感じた率直な思いを書くようながす。 ○ワークシートを回収し、本時の評価をする。 	

(2) 評価

評価の観点：鑑賞

評価規準：作品の比較鑑賞をとおして、ジャポニズムについて理解を深める。

十分に満足できると判断される生徒の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャポニズムについて興味を持って説明を聞き、日本美術の影響の跡を見つけて記入している。 ・自分の考えや感想を持って発表したり、友達のことをしっかりと聞くことができる。
おおむね満足できると判断される生徒の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞き、プリントに記入している。 ・感想や考えをプリントに記入し、友達のことを聞いている。
努力を要すると判断される生徒の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに記入していない。 ・集中して話を聞かず、じっくり考えることもしない。

評価の観点：関心・意欲・態度

評価規準：作品の鑑賞を楽しみ、自分の意見を持つ。

十分に満足できると判断される生徒の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話や友達のことをきちんと聞いている。 ・自分の考えを積極的に発表したり、プリントに記入したりしている。
おおむね満足できると判断される生徒の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話や友達のことを聞いている。 ・自分の意見をプリントに記入している。
努力を要すると判断される生徒の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して話を聞けていない。 ・発表したり、プリントに記入したりしていない。

